

所属及び名前は左詰め。

・日本語 MS 明朝 10pt。英語 TNR10pt。
 ・単元指導計画の単位時間のねらいと一致させる。

・日本語 MS ゴチ 10pt。
 ・右詰め。

【●●●市立●●●中学校：●● ●●●】

過程 / LSRW 学習活動 授業の実際及び本時の見届け

帯活動 SL
 課題の把握
 伝え合う 1 SL
 過程
 書きまとめ W

1 ●●●●を行う。

学習活動
 ・日本語 MS 明朝 9pt, 英語 TNR9pt。

●●●●

本時の課題
 ・基本的に英文で記述する。
 ・センタリング。
 ・日本語 MS 明朝 9pt, 英語 TNR9pt。
 ・枠線はテキストボックス二重線(2pt)。

4 ●●●●を行う。【テストの●●●●問題に対応】

テストとの関連
 ・単元指導計画の「テストとの関連」で述べられた活動に付ける。
 ・日本語 MS ゴチ太 9pt。
 ・テーマの色を黒にして、文字色を白にする。

本時の終末で到達させたい姿
 ・対話形式やスピーチ形式で記述する。
 ・対話形式であれば「S1」「S2」を用いる。
 ・日本語 MS 明朝 9pt, 英語 TNR9pt。
 ・枠線はテキストボックス点線(0.5pt)。

【本時の終末で到達させたい姿】
 S1: ●●●●
 S2: ●●●●

生徒の振り返り
 ・日本語による生徒の振り返りは位置付けても位置付けなくてもどちらでもよい。位置付ける場合は、本時を通してできたこと、分かったこと、また、次時に生かしていきたいことを述べる。
 ・日本語 MS 明朝 9pt, 英語 TNR9pt。
 ・枠線はテキストボックス直線(0.5pt)。

【1 Small Talk の実際】
 T: ●●●●
 S1: ●●●●
 T: ●●●●
 Ss: ●●●●

【授業の実際】
 ・【●●●の実際】の「●●●」は「過程」に用いられる言葉、もしくは端的に表した活動名とする。
 ・日本語 MS 明朝 9pt, 英語 TNR9pt。
 ・その活動を始める際、また、生徒に指示をする際に実際にどのような言葉（英語）を用いているかを記述する。ただし、50 分間全ての英語を記述するのではなく、生徒との自然な対話や指示及びその確認の際の英語があればよい。
 ・教師は「T」、生徒は「S1」「S2」、生徒が複数の場合は「Ss」を用いる。

【3 伝え合う 1 の実

本時の見届け

本時の見届け
 ・本時のねらいに到達したかどうかの見届けるの仕方を具体的に述べる。
 ・タイトルを「【本時の見届け】」とする。
 ・「・(中点)」を付けて述べて始める。
 ・日本語 MS 明朝 9pt, 英語 TNR9pt。

【5 書きまとめの実際】

評価規準
 ・従来の「【外国語●●の能力 ●●こと ●●な発話】」は記載しない。
 ・評価の場を「(●●)」で記述する。例) (ワークシート)
 ・日本語 MS 明朝 9pt, 英語 TNR9pt。
 ・枠線はテキストボックス直線(0.5pt)

評価規準
 ●●●●することができる。
 (●●/●●●●●●)